

海外安全対策情報平成27年度第2四半期（7月～9月）

1 社会・治安情勢

（1）テロや内戦はありませんが、侵入強盗事件・路上強盗事件・カージャック事件が頻発して発生しています。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）邦人被害事案

（ア）9月3日、リロングウェ市のゴールデンピーコックホテル（中国系ホテル）において、宿泊していた邦人旅行者がホテル内のレストランで食事をとるため、部屋を離れた隙に室内を物色されてしまい、所持していたすべての現金（1,000米ドル）が盗まれました。ドアや窓にこじ開けられた形跡等もないことから、清掃員等ホテル関係者の犯行である可能性が高いです。また、その他にリロングウェ市のパシフィックホテルにおいても、同様の被害が近年多く報告されていることから、上記2つのホテルに滞在することは、あまりお勧めしておりません。

（2）邦人以外の被害事案

（ア）7月20日の夜間、リロングウェ市エリア47のG I Z職員の一軒家住居において、キッチンのバーグラバーを強盗にこじ開けられてしまい（自動車のジャッキを使用）、パソコン等の電化製品を盗まれました。

（イ）8月21日の夜間、リロングウェ市エリア10の国連職員の一軒家住居において、隣の住居敷地内から強盗が侵入し、リビング窓のバーグラバーをこじ開けられてしまい、多数の電化製品が盗まれました。敷地内には警備員2名が配置されていましたが、朝まで犯行に気付くことが出来ませんでした。

（ウ）8月22日の夜間、サリマ(Salima)及びクタクタ(Nkhotakota)の湖畔沿いの2つのロッジにおいて、襲撃事案が連続して発生し、G I Z（ドイツ国際協力公社）職員が強盗被害に遭いました。いずれの事案も犯行にボートが使用されており、警備が手薄になっている湖畔沿いから敷地内に侵入していることから同一犯の可能性がります。なお、銃で武装した5人組の犯人グループは、始めにサリマのサファリ・ビーチロッジを襲撃し、ロッジを制圧の上、宿泊客から金品を強奪後にボートで逃走した。犯人グループは空に向け銃を数回発砲しましたが、幸いにして宿泊客に怪我はありませんでした。また、その後、クタクタのイーグル・ビーチロッジにも、同様の手口の犯人グループが出没し、ロッジが襲撃されましたが、こちらも被害は宿泊客の金品のみで怪我

はありませんでした。マラウイ警察の外交団警備部長に上記犯行について見解を伺ったところ、犯行にボートが使用されていることから、モザンビーク側から越境をして、マラウイ湖畔のロッジを襲撃している可能性が高いとのことでした。なお、上記強盗被害に遭った際には、必ず無抵抗に徹し抜き、怪我をしないこと及び貴重品を1箇所に保管することなく、事前に分散させていることの2つが非常に重要です。

(エ) 9月12日の夜間、リロングウェ市エリア10のノルウェー大職員の一軒家住居において、強盗がフェンスを乗り越えて敷地内に侵入し、キッチンのバーグラバーをこじ開け、室内に置いていたパソコンが盗まれました。屋外の壁の上部に設置していたエレクトリックフェンスは、停電で作動していませんでした。

(オ) 9月17日の夜間、リロングウェ市エリア43のEU大職員の一軒家住居において、敷地内にパンガ（ナタ）を所持した2人組の強盗が侵入し、警備員をパンガで襲撃しました。警備員が負傷しながらも屋外の非常ボタンを押下し、サイレンを鳴動させたことから、強盗は何も取らずに逃走しました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

誘拐・脅迫事件の発生情報はありません。

5 日本企業の安全に関する諸問題

対日感情は良好であるため、現時点では日本企業であることを理由に問題となる情報はありません。